年度 2009　学期 前期	曜日・校時　月 3	必修選択　選択	単位数　2
授業科目/(英語名)	社会と歴史(教育福祉論) Society and History (Theory of Education and Social Work)		
対象年次　1・2年次	講義形態　講義	教室	
対象学生(クラス等)　全学部		科目分類　人文・社会科学科目	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
担当教員:小西祐馬　/Eメールアドレス:konishi@nagasaki-u.ac.jp　/研究室:教育学部 2 階 214　/TEL:095-819-2328
/オフィスアワー:火曜昼休み

担当教員(オムニバス科目等)	

授業のねらい/授業方法（学習指導法）/授業到達目標

授業のねらい:

貧困と不平等が拡大し、家族形成の困難や子育て・子育ちにおけるリスクが顕在化する中、妊娠・出産～乳幼児期から青年期にいたるまでの子どもとその家族はいかなる状況にあるのかについて理解を深める。加えて、少子化、育児不安、虐待、いじめ・不登校を含む学校からの排除、非行、高校中退、学力の階層的不平等などの具体的な問題の考察を通して、子どもの発達をささえるためには教育と福祉の双方による取り組みが必要であることを理解し、そのありかたについて検討する。

授業方法:

講義形式。毎回、資料を配布する。テレビのドキュメンタリー番組などの視聴覚資料も使用する。

授業到達目標:

現代の子どもとその家族がどのような状況にあるのかについて、少子化・虐待・貧困など具体的な問題群を通して、かつ家族の資源格差や子育ち条件の不平等などを通して説明できる。子どもの育ちを平等に保障するために必要な制度設計について、教育・福祉・保育制度の現状と課題を踏まえて提案できる。物事の表層のみにとらわれることなく、その深層の要因や構造に着目することができるようになる。

授業内容(概要) /授業内容(毎週毎の授業内容を含む)

授業内容(概要)

親の結婚・妊娠・出産から始め、基本的には子どものライフコースに沿って講義を展開する。「子ども・家族・社会」、あるいは「家族・市場・国家」という連関を意識し、子どもの育ちを多面的に理解する。終盤では、問題・困難に対する制度的・実践的対応について検討する。

第1回　ポスト工業化社会における子育て・子育ち
第2回　家族の現在
第3回　結婚と出産の困難――少子化について
第4回　育児不安と虐待(1)
第5回　育児不安と虐待(2)
第6回　幼児教育・保育の現状と課題(1)
第7回　幼児教育・保育の現状と課題(2)
第8回　家族資源格差と子どもの教育・生活における不平等(1)――家庭教育と子どもの育ち
第9回　家族資源格差と子どもの教育・生活における不平等(2)――学力の階層的不平等
第10回　家族資源格差と子どもの教育・生活における不平等(3)――大学進学の不平等
第11回　教育から職業への移行の危機――若年層に広がる非正規雇用
第12回　子どもと家族に対する教育福祉的対応(1)――福祉国家という仕組み
第13回　子どもと家族に対する教育福祉的対応(2)――子どもと家族を支える制度
第14回　子どもと家族に対する教育福祉的対応(3)――子どもと家族を支える実践
第15回　まとめ～子どものライフチャンスの平等に向けて

キーワード	格差・不平等、貧困の世代的再生産、家族主義、ライフチャンス、スクールソーシャルワーク
教科書・教材・参考書	教科書は使用しない。以下は参考文献。読みやすいものを挙げるので、積極的に読んで欲しい。 浅井春夫ほか『子どもの貧困』(明石書店)、岩川直樹ほか『貧困と学力』(明石書店)、 阿倍彩『子どもの貧困』(岩波新書)、柏木惠子『子どもが育つ条件』(岩波新書)、 苅谷剛彦『学力と階層』(朝日新聞出版)、小林雅之『進学格差』(ちくま新書) 川崎二三彦『児童虐待』(岩波新書)、山野則子他『スクールソーシャルワークの可能性』(ミネルヴァ) 泉千勢ほか『世界の幼児教育・保育改革と学力』(明石書店)、 諏訪哲二『学力とは何か』(洋泉社新書)、本田由紀『「家庭教育」の隘路』(勁草書房)、 G・エスピン-アンデルセン『アンデルセン、福祉を語る』(NTT 出版)
成績評価の方法・基準等	期末レポート 70% 授業中の課題(リアクションペーパーの記入など)に対する取り組み状況 30%
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ/学習・教育目標	
備考(準備学習等)	教育学部幼稚園教育コース所属の 1 年生は履修すること